



2021年度
第6回

東日本復興支援事業

読者からの熱い思いを東北へ!



社会福祉法人 中日新聞社会事業団

〒460-8511 愛知県名古屋市中区三の丸1丁目6番1号 中日新聞社内
TEL: 052-221-0580 (平日10:00~18:00) Eメール: robola@chunichi-shakaijigyo.jp

事業団に関する詳細は <http://www.chunichi-shakaijigyo.jp> HPをご覧ください



社会福祉法人 中日新聞社会事業団



東日本復興支援事業について

「社会福祉法人中日新聞社会事業団」の本部、各支部へ寄せられた寄付金をもとに、東日本大震災復興に関する事業、ならびに福島、宮城、岩手各県の保健、福祉の向上に関する事業を行う団体に対し、助成を行います。



一般社団法人
フリースペース道



石巻復興きずな新聞舎



NPO法人
仙台グリーンケア研究会



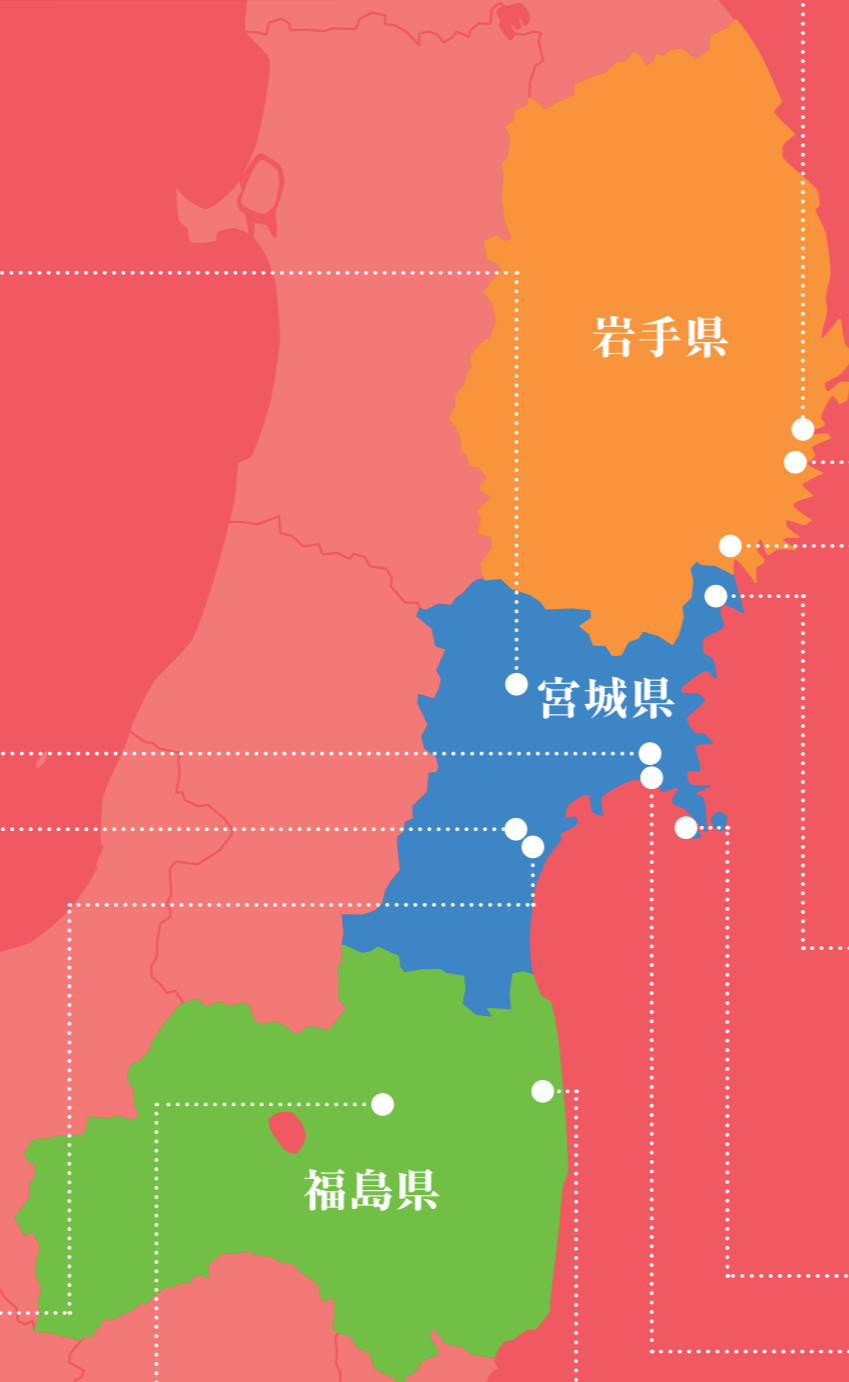
一般社団法人
東北圏地域づくり
コンソーシアム



一般社団法人
ちろる



希来



岩手県

宮城県

福島県



おおつち おばちゃんくらぶ



特定非営利活動法人
アットマーククリアス
NPOサポートセンター



つむぐ



けせんぬま森のおさんぽ会



あじ島冒険楽校



公益社団法人
3.11みらいサポート

CONTENTS

東日本復興支援事業について 1
 ごあいさつ 3
 社会福祉法人
 中日新聞社会事業団とは 4
 過去の配分実績 5

宮城県

一般社団法人
 東北圏地域づくりコンソーシアム 7
 NPO法人
 仙台グリーンケア研究会 9
 あじ島冒険楽校 11
 石巻復興きずな新聞舎 13
 けせんぬま森のおさんぽ会 15
 公益社団法人
 3.11みらいサポート 17
 一般社団法人
 フリースペース道 19

岩手県

つむぐ 21
 特定非営利活動法人
 アットマーククリアスNPOサポートセンター 23
 おおつち おばちゃんくらぶ 25

福島県

一般社団法人
 ちろる 27
 希来 29

東日本大震災と中日新聞社 31

東日本復興支援金に寄せて

中日新聞社会事業団 理事長 河津 市三

昨年12月初旬。名古屋から一路、花巻空港へ。事業団一行が降り立つのを待っていてくれたのか、粉雪が舞い始めた。東日本大震災の傷跡は10年以上経過した今も癒されてはいない。復興も道半ばだ。それでも東北の被災地で復興支援事業に取り組むグループの想いは熱い。そんな人たちを支援金という形で応援してきたのが、中日新聞社会事業団が続けている東日本復興支援事業である。

2011年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0の大地震が東日本を襲った。とりわけ岩手、宮城の両県には今も昨日のことに目に焼きついて忘れることのできない大津波が押し寄せた。2万人近くの死者・不明者。多くの人が親・兄弟、祖父母、孫、友だちを一瞬にして失った。その悲しみは永遠（とわ）に消えないだろう。福島県では東京電力福島原発のメルトダウンによる放射能漏れで多くの人が故郷を離れた。

大惨事への支援の輪は、またたく間に全国へ広がり、世界各国からも手が差しのべられた。「絆（きずな）」が合言葉に。あれから10年。国や自治体の支援手当ての削減など、その輪は徐々にしぼんでいるのでは。

支援の輪を絶やすことはできない。事業団は、せめて復興支援事業を地道に続けているグループに対し多少なりとも資金面での援助ができないか、と考えた。

中日新聞発行エリアの中部、関東1都15県の主に読者から寄せられた支援金である。あまり肩に力を入れず、各グループには支援活動の輪をさらに広げてほしい。

配分委員の皆さん

委員長	河津 市三	中日新聞社会事業団 理事長
委員	垣尾 良平	中日新聞社会事業団 常務理事
	榊原 英夫	愛知県共同募金会 企画調整課長
	近藤日出夫	桜花学園大学保育学部 非常勤講師
	川上 知幸	金城学院大学人間科学部 非常勤講師

名古屋市を本社に持つ中日新聞ならびに東京新聞の読者を中心とした企業や個人などから寄せられる善意の寄付金をもとに、本部（名古屋）と4支部（東海、北陸、東京、岐阜）において、児童、心身障害児・者、老人、医療など幅広い分野の社会福祉事業や公益事業の主催、共催、後援、助成金支援の事業を行っています。

児童福祉の分野では、名古屋近郊の愛知県日進市で児童養護施設と児童心理治療施設を併設した児童福祉施設「中日青葉学園」を運営しており、ファミリーホームや里親家庭などと連携し社会的養護が必要な児童への支援を手厚く行っています。

また、中日新聞社に協力し、大規模な災害に対して義援金を広く募集して、被災地へ届ける活動も行っています。

主な福祉事業

福祉	児童福祉	児童福祉施設に入所している子どもたち、ファミリーホームや里親家庭の子どもたちへの支援 交通遺児支援、母子・寡婦などひとり親家庭への支援 生活保護家庭の小中学生にお年玉を贈る活動 ※年末のみ
	心身障害児・者福祉	特別支援教育の作品展やスポーツ大会 特別支援教育振興のための研究助成金贈呈 障害者団体への支援、スポーツ大会や作品展などでの表彰
	高齢者福祉	老人福祉施設作品展、講演会など
	医療福祉	難病者団体に激励金を贈呈／難病団体、患者・家族会への支援
災害支援	中日青葉学園	児童養護施設「あおば館」／児童心理治療施設「わかば館」
	災害義援金・救援金	随時発生した災害に対する支援（義援金実績は下記一覧） ※現地の災害対策本部などへお届けします
	東日本復興支援金	東日本大震災で被災した地域の、行政でカバーできない福祉団体や被災者支援活動を行っている団体への支援 ※義援金とは異なります

主な災害義援金実績（令和元年12月31日現在）

阪神大震災義援金	平成 7年 1月	84,104件	5,790,979,873円
東海豪雨災害義援金	平成12年 9月	2,209件	421,966,342円
東日本大震災義援金	平成23年 3月～平成31年 3月	95,339件	9,088,915,451円
広島土砂災害義援金	平成26年 8月	802件	30,668,185円
熊本地震義援金	平成28年 4月	13,932件	1,091,554,693円
九州豪雨義援金	平成29年 7月	2,025件	75,293,523円
西日本豪雨義援金	平成30年 7月	9,240件	529,263,200円
台風19号義援金	令和元年10月	6,634件	259,360,432円
令和2年7月豪雨義援金	令和 2年 7月	2,740件	76,190,320円
東日本復興支援金	平成26年 8月～令和 2年 8月	1,382件	87,179,028円

各支部所在地


中日新聞社会事業団本部	〒460-8511 名古屋市中区三の丸一丁目6番1号 中日新聞名古屋本社内 Tel. 052-221-0580 Fax. 052-221-0839
中日新聞社会事業団 北陸支部	〒920-8573 石川県金沢市駅西本町二丁目12番30号 中日新聞北陸本社内 Tel. 076-233-4644 Fax. 076-233-7831
中日新聞社会事業団 東海支部	〒435-8555 静岡県浜松市東区葉新町45番地 中日新聞東海本社内 Tel. 053-421-7711 Fax. 053-421-5987
中日新聞社会事業団 東京支部	〒100-8505 東京都千代田区内幸町二丁目1番4号 中日新聞東京本社（東京新聞）内 Tel. 03-6910-2520 Fax. 03-3503-1438
中日新聞社会事業団 岐阜支部	〒500-8875 岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地 中日新聞岐阜支社内 Tel. 058-265-0283 Fax. 058-263-7010
児童養護・児童心理治療施設 中日青葉学園	〒470-0131 愛知県日進市岩崎町竹ノ山149-164 Tel. 0561-72-0134 Fax. 0561-74-2315

過去の配分実績

第1回～第5回の配分先

	所在県	団体名	活動内容
第1回	福島県	一般社団法人 ふくしま原発避難者・若者支援機構 (たまきはる福島基金)	ふくしま原発避難者・若者支援機構 ・運営費
		NPO法人 アクセスホームさくら	指定障害福祉サービス 就労継続支援B型 ・備品購入費
第2回	宮城県	NPO法人 MMサポートセンター	自閉症スペクトラム症を中心とした発達障害児の相談・検査・療育事業 ・建物修繕費用
		NPO法人 アスイク	被災した低所得世帯の学習支援・居場所づくり事業 不登校の子どもを対象としたフリースクール事業 ・運営費
		社会福祉法人 山元町社会福祉協議会 山元町共同作業所	指定障害福祉サービス事業所 ・建物修繕費用
	岩手県	NPO法人 愛ネット高田	車両による福祉無償運送事業 介護保険事業(居宅支援事業、訪問介護事業) ・運営備品購入費
		NPO法人 かまいし共生会 グループホームかみくり荘	共同生活援助(精神障害者の自立支援のための生活援助) ・居など改繕費
		NPO法人「居場所」創造プロジェクト	高齢者を中心とした居場所づくり事業 ・運営費、備品購入費
第3回	宮城県	一般社団法人 みやぎ連携復興センター	震災復興に特化した中間支援団体 ・事業運営費(人件費・旅費・研修参加費)
	福島県	一般社団法人 ふくしま連携復興センター	震災復興に特化した中間支援団体 ・事業運営費(旅費・会議費)
	岩手県	NPO法人 いわて連携復興センター	震災復興に特化した中間支援団体 ・事業運営費(人件費・旅費・講師謝礼金・交通費)
第4回	宮城県	NPO法人 仙台傾聴の会	被災地での傾聴支援 ・事業運営費(人件費・会場費他)
		一般社団法人 まなびの森	被災地で増加する不登校児の居場所づくり事業 ・事業運営費(人件費・会場費他)
		障害福祉サービス事業所 くじらのしっぽ	障害者の就労継続支援 ・修繕費(トレーラーハウス改築費他)
		東北大学福興youth	東北大学の学生を中心とした被災地でのボランティア ・事業運営費(宿泊費・交通費)
	福島県	NPO法人 チェルノブイリ救援・中部	福島県での原発被災者支援 ・招へい旅費、印刷代
		NPO法人 いわき自立生活センター	障害者の就労支援・介護事業等 ・軽トラック車輻費
		NPO法人 ビーンズふくしま	不登校児や引きこもり児童の居場所づくり事業 ・事業運営費(人件費・車輻リース代)
	岩手県	一般社団法人 ほまれの会	障害者就労継続支援B型事業所 ・事業運営費(人件費・備品購入費)
NPO法人 いなほ		内陸避難者の孤立防止事業 ・事業運営費(人件費・材料費・印刷代)	

	所在県	団体名	活動内容
第5回	宮城県	一般社団法人 震災こころのケア・ネットワークみやぎ からころステーション	被災者の心のケア・障害者相談支援事業 ・訪問車両購入費
		チャイルド工房	震災後の幼児遊び場確保、野外活動事業 ・人件費
		東北大学陸前高田応援サークル ぼかぼか	岩手県陸前高田市におけるボランティア活動 ・事業運営費(人件費、旅費他)
		一般社団法人 復興みなさん会	仮設住宅・復興公営住宅のコミュニティ形成支援 ・運営費 ・記録誌発行費
		富谷傾聴の会	地域住民への傾聴活動 ・備品購入費
		一般社団法人 ワタマスマイル	福祉的居場所づくりと地域コミュニティ再生事業 ・運営費(人件費、備品購入費)
	福島県	ARTS for HOPE	被災児童・高齢者等へのアートに特化した支援事業 ・運営費(人件費、備品購入費他)
		NPO法人 南相馬サイエンスラボ	被災地の風評被害払拭を目的とした稲刈り体験交流事業 ・運営費(人件費、謝金他)
		NPO法人 チームふくしま	福祉作業所への業務委託による障がい者の雇用促進 ・運営費 ・備品購入費
		いいのどんぐりの会	飯館村民と地域の方々の心と身体の健康を図る事業 ・運営費(会場費、備品購入費他)
岩手県	NPO法人 パクト	陸前高田市復興サポートステーションの運営 ・運営費(人件費、備品購入費他)	
	NPO法人 陸前高田まちづくり協働センター	市民活動の相談支援、地域づくりの担い手の育成、担い手のつながりづくり ・運営費(人件費、備品購入費他)	



中日新聞社会事業団のマスコットキャラクターでござる。お見知り置きを!

ロボラ

困っている人に手を差し伸べる、心優しきコアラ型ロボットヒーロー、ロボラ！
体には人助けのためのあらゆる機能が搭載されている。今日も困っている人のため、寄付金を集めている！

「性格」
とっても温厚で、おっとりした性格。しかし困っている人がいたら、どんなことがあっても助ける！と心に誓っている。こー見えて実はとっても感動屋。しかしロボットなので表情の変化はあまりない。なので体の動きで表現する！

「裏設定～ロボラの生い立ち～」
昔ロボラがまだ、ただのコアラだった頃、ひとりぼっちで泣いていたところを、心優しい博士に声をかけられ、助けられた。その博士の意志を継ぐため、ロボットヒーローに大変身！
「今度は自分が泣いている人を助ける番だ！」と決意したロボラは今日も人助けへと出かけていく。

「アンテナ」
頭の上についている黄色いアンテナで、困っている人たちの情報を受信することができる！

「眼」
暗闇でも見える眼で、どんな場所にいる人も助けに行ける！

「耳」
大きな耳で困っている人たちの声を聞くことができる！

「鼻」
本人いわく、『拙者のチャームポイントであります！』

「腕」
とっても力持ち！実はまだまだ隠された能力が…？

「お腹」
優しさがたくさん詰まったポンゴコお腹。

「ハートのしっぽ」
ロボラの体で最も柔らかい部分。ロボラのしっぽをもふもふすると、触った人の心も柔らかくなる！

「喋り方～拙者がオタスケイタス！～」
ロボットなので、まだまだ言葉は覚えなくて。一生懸命言葉を覚えようとしているが、名古屋の武将の本やテレビをよく見ているので、ロボット口調+妙に古めかしい言葉遣いで不思議な話し方になってしまった。

団体所在地

〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋254 ニューメゾン土樋201

Tel: 022-353-7550 Fax: 022-397-7230



Q1. どんな活動をしてるのでござる?

住民が主体になったまちづくり活動や、住民と自治体が協働でまちづくりを行うプロセスを、主に宮城県内で支援しています。東日本大震災・福島第一原子力発電所事故の後は、福島県から広域に避難された方々が、避難先でコミュニティを形成することができるように支援してきました。そのご縁もあって、北海道～東北地方で活動する広域避難者支援団体間の情報交換の場づくりなども行っています。

Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる!

震災の被災地で多様な団体や自治体などが取り組んできた地域コミュニティ再生のプロセスを振り返り評価し、今後の大規模災害発生時の教訓として活かしていただけるようにするための事例集を発行します。

Q3. 東北圏地域づくりコンソーシアムのアピールポイントは?

支援の現場に出る「直接支援」活動と、支援者の支援を担う「中間支援」活動の両軸で走ってきました。複眼的な視点で地域を見つめ、そこから得られる知見を活かして活動しています。

Q4. 令和4年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか?

震災から長期に渡った復興プロセスもようやく一区切りが近づいてきました。単に終わらせるのではなく、きちんと評価検証し、次に繋げていく1年間にしていきたいと考えています。

Q5. 寄付して下さった皆さんにメッセージをどうぞござる!

今回のような振り返り・検証事業は支援をいただける機会が少ない中、貴重なご寄付をいただいたこと、心より感謝いたします。震災後の長期の経験を発信していく、その一端を担っていきます。



インタビューに答えてくれた方を紹介するござる!

お名前 …………… 高田 篤
役職 …………… 事務局長
趣味 …………… 日本酒
好きな食べ物 …… チーズ



ふくしま仙台サロン 浪江の伝統文化を語る



ふくしま仙台サロン 七夕飾り作り



南三陸町震災復興祈念公園 椿の植樹会 (復興みなさん会)



復興みなさん会定例会 上山八幡宮社務所



地元の花でアレンジメント教室 山木屋中学校

団体所在地

〒980-0022 宮城県仙台市青葉区五橋2-1-15 あしなが育英会 仙台レインボーハウス内

Tel: 070-5548-2186



Q1. どんな活動をしてるのでござる?

大切な方を亡くされた方々が、日頃話せない思いを亡くされた方々同士で語り合う場『わかちあいの会』を開催しています。わかちあいの会スタッフ育成のためのグリーフケアの担い手養成講座を開いています。

Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる!

グリーフケアの担い手養成講座のための、講師の謝金、交通費、事務職員の人件費、その他の経費等にらせていただきます。

Q3. 仙台グリーフケア研究会のアピールポイントは?

自死以外の死因を問わない わかちあいの会は、近隣の県では活動されていない遺族支援です。また担い手養成講座についても同様、他県からの参加者が多いです。

Q4. 令和4年度の活動の意気込みを拙者に教えてくれぬか?

活動そのものが地味な活動なので、粛々と継続あるのみ。

Q5. 寄付してくださった皆さんにメッセージをどうぞござる!

皆さまのご寄付があってできる支援です。グリーフ(喪失に伴う様々な反応)を抱えている遺族の皆さまに、ご寄付をしてくださっている皆さまのお気持ちが伝わるように案内させていただきます。
皆さま、本当にありがとうございます。



インタビューに答えてくれた方を紹介するござる!

お名前 …… 関根 ミチ子
役職 …… 事務局員
趣味 …… 編み物
好きな食べ物 …… メロゴールド



グリーフケアの担い手養成講座「キホンのキ」



グリーフケアの担い手養成講座「ナラティブアプローチ」



グリーフケアを学ぶ受講者ら



わかちあいの会の進め方の講座



わかちあいの会の様子

団体所在地

宮城県石巻市網地島

Tel: 0225-49-2234 Fax: 0225-49-2234



Q1. どんな活動をしてるのでござる?

網地島(宮城県石巻市)は、遠洋漁業や捕鯨が廃れ、高齢化率9割の限界集落となり、子どもの声を聞くことはほとんどありません。地域における子どもの大切さを身に染みて感じています。高齢の自分たちができること、東日本大震災により両親を亡くした子、被災地の子、虐待や貧困等により里親家庭で暮らす子を幸せにしてあげたいと考えて活動しています。

Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる!

令和4年夏に、東日本大震災により両親を亡くした子、被災地の子、虐待や貧困等により里親家庭で暮らす子ども達等を網地島に招待し、網地島だけの魚釣り「アナゴ抜き」、餅つき、はっと(宮城県の郷土料理)づくりなど、昔ながらの料理づくりを楽しんでもらう予定です。

Q3. あじ島冒険楽校のアピールポイントは?

高齢のスタッフばかりで体中のあちこちが痛み、島にある「網小医院」にみんなお世話になっていますが、教員を目指している大学生ボランティアとともに、子ども達のために頑張っています。快活な島の海女(心は十代の七十代)が作る料理はとても美味しいですが、料理の際にカヤカヤとみんな船頭になるのが玉にキズです。

Q4. 令和4年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか?

2年以上も新型コロナウイルスが猛威を振るっており、子ども達も窮屈で思いっきり遊べないことから、気が滅入る日々を送っています。参加される方々と協力しながら、感染予防対策を行いつつ、子ども達に子ども時代の楽しい思い出をたくさん作ってあげたいです。

Q5. 寄付してくださった皆さんにメッセージをどうぞござる!

御寄付くださり、本当にありがとうございました。高齢者と外猫しかいない島ですが、めがい子ども達のために頑張っていきます。よろしくお願いいたします。



インタビューに答えてくれた方を紹介するござる!

お名前 佐藤 浩也
 役職 用務員見習
 趣味 地域づくり観光
 好きな食べ物 網地島の生きているうにやあわび



ながぐづ先生の植物教室 強烈なヤマユリの臭いを体験



透き通った網地島の海 宙に浮いているみたい



おじいさんにエサを付けてもらって魚釣り



島の海女とのはっとづくり



島の海女(心は十代)とのお別れ

石巻復興きずな新聞舎

宮城県

団体所在地

〒986-0813 宮城県石巻市駅前北通り1-5-3

Tel: 090-6686-8317



Q1. どんな活動をしているのでござる?

宮城県石巻市の災害公営住宅（震災で自宅を失くした方向けの公営住宅）向けに無料情報紙「石巻復興きずな新聞」を発行し、ボランティアの手でお届けする活動を行っています。災害公営住宅は抽選で入る場所が決まっているので、震災前のコミュニティが必ずしも引き継がれているわけではなく、孤立しがちな環境です。手渡しで新聞を配布し、住民さんの声に耳を傾けることで、孤立を防ぐ見守り活動や心のケアを行っています。

Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる!

新聞を作るための印刷製本費、新聞を配るための旅費交通費（レンタカー代、ガソリン代など）、新型コロナの感染対策グッズの購入費、有償ボランティアへの謝金などに大切に活用させていただきます。

Q3. 石巻復興きずな新聞舎のアピールポイントは?

「紙の新聞」にこだわっているところでしょうか。スマホで簡単に情報が手に入る時代ですが、紙の新聞の視認性や温かみには勝てません。「これまでの号を全部保管してある」という方がたくさんいらっしゃいます。新聞というより、手紙なんだと思います。

Q4. 令和4年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか?

仮設住宅も解消となり、まさに「これから!」という時に始まった新型コロナ禍…。孤立が深刻化する今だからこそ、私たちの活動が必要とされていると感じています。

Q5. 寄付して下さった皆さんにメッセージをどうぞござる!

震災から10年以上が経ち、震災の風化が叫ばれる中、今も東北に想いを馳せてくださっている皆様からいつも勇気をもらっています。ご支援に心より感謝申し上げます。



インタビューに答えてくれた方を紹介するござる!

お名前 …………… 岩元 暁子
役職 …………… 代表兼編集長
趣味 …………… フルーツ
好きな食べ物 …… ホヤ、牡蠣



きずな新聞を配るボランティアスタッフら



住民の声を聞く心構えを学ぶ講座の様子



団体設立時のキックオフミーティング



楽しみに待っている読者も多い



一軒一軒手渡しで配布

けせんぬま森のおさんぽ会

宮城県

団体所在地
〒988-0012 宮城県気仙沼市栄町
Mail : k.morisanpo@gmail.com



Q1. どんな活動をしてるのでござる?

宮城県気仙沼市で、子どもたちやその親と自然の中で活動しています。“うちの子よその子”関係なくみんなで見守り合うことで、子育てが楽しい!と思える環境づくりをしています。昨年から不登校の子どもたちの居場所づくりも開始し、大人も子どもも「自分らしく」いられるような場所を開いています。

Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる!

昨年4月からはじめた不登校の子どもと親の支援事業「旅する学校」の運営に活用させていただきます。具体的には、みんなで空き家を改修してつくった居場所の備品整備などです。

Q3. けせんぬま森のおさんぽ会のアピールポイントは?

海も山も半島もある気仙沼の素晴らしい自然を活かしながら、地域を巻き込んで子育て、不登校の子どもや親への支援活動をしているということです。

Q4. 令和4年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか?

新型コロナの感染拡大の影響で子どもたちの居場所や遊びが制限されてしまう状況ですが、外でめいっぱい身体を動かして遊んで、大人もゆっくり癒されるような時間をよりいっそう大切にしていきたいと思います!

Q5. 寄付してくださった皆さんにメッセージをどうぞござる!

ご寄付ありがとうございました。復興支援をきっかけに愛知県から移住して3人の子どもを育てています。震災から11年、子どもたちの笑顔と共に今の気仙沼の様子をみなさんにお伝えできたら嬉しいです。



インタビューに答えてくれた方を紹介するござる!

お名前 …………… 杉浦 美里
役職 …………… 共同代表
趣味 …………… 焚き火で
べっこう飴づくり
好きな食べ物 …… カレー



現代アーティスト加藤鉄平さんのアートワークショップ



田んぼを作るため初めてのコンボ操作



森の寺子屋でお花見をしながらのお昼ごはん



手作り箸を作って記念撮影!



学びの場所はさまざま

団体所在地

〒986-0834 宮城県石巻市門脇町5-1-1

Tel: 0225-98-3691 Fax: 0225-98-3692



Q1. どんな活動をしているのでござる?

東日本大震災を経験した岩手・宮城・福島県を中心に、震災伝承に関わる個人・団体で構成される草の根の連携組織「3.11メモリアルネットワーク」を通じて、各地の伝承活動をサポートしています。近い将来、南海トラフ地震や首都直下地震の発生も想定されている中、継続的な伝承によって、「災害で命が失われない社会の実現」「被災者や被災地域の苦難を軽減し、再生に向かうことのできる社会の実現」を目指しています。

Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる!

南海トラフ地震の想定地域でシンポジウムを開催します(2022年秋頃予定)。岩手・宮城・福島県の語り部から3.11の教訓を発信し、災害に備える機運を高める一助になりたいと考えています。

Q3. 3.11みらいサポートのアピールポイントは?

震災伝承に関心を持つ方は、誰でもネットワークに参加いただけます。2020年名古屋市でのシンポジウムを機に、愛知県の方もたくさん会員になってくださいました。

Q4. 令和4年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいござるか?

新型コロナウイルスの影響が続きますが、そんな時でも災害は起きます。オンラインや動画での発信、基金助成事業などを通じ、震災伝承の継続・発展を支えていきます。

Q5. 寄付してくださった皆さんにメッセージをどうぞござる!

皆さまのご寄付によって、地域を超えた伝承の場を作ることができ、心より感謝申し上げます。震災伝承を通じて、東北の被災地から東海地方の皆さまへお返しのできたらと思っています。応援のほど、よろしくお願いいたします!



インタビューに答えてくれた方を紹介するござる!

お名前 武田 真一
役職 理事
趣味 温泉、スポーツ観戦
好きな食べ物 鶏料理、日本酒



活動についてシンポジウムで発表



伝承に取り組む方たちのための研修会



「おらが大槌夢広場」の体験プログラム



宮城県石巻市からオンラインで語り部中継する様子



宮城ネットワーク交流会でのグループワーク

団体所在地
〒989-6436 宮城県大崎市岩出山字二ノ構52
Tel: 090-8561-4267



Q1. どんな活動をしているのでござる?

宮城県内で不登校の子どもたち(小学生・中学生・高校生)の学校以外の居場所としてフリースペースを運営しています。現在、小学2年生～高校2年生まで10名の子どもたちが通っており、勉強や読書、おしゃべり、課外の体験活動を通して、社会的自立を目指して活動しています。

Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる!

子どもたちの体験活動(農業体験、乗馬体験、宿泊体験など)の活動資金として活用させていただきます。学校では経験できない貴重な体験を重ねていく予定です。

Q3. フリースペース道のアピールポイントは?

2017年に施行された教育機会確保法の理念に乗り取り、学校以外の多様な学びの場として、将来の宮城を担う子どもたちと一緒に成長しています。

Q4. 令和4年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか?

フリースペース道をもっと多くの人に知っていただけるよう、活動を広げていきます。また、学校以外の多様な学びの場として公民連携を強化していきます。

Q5. 寄付してくださった皆さんにメッセージをどうぞござる!

みなさんのご支援、本当にありがとうございます。東日本大震災から11年が経とうとしていますが、まだまだ復興は半ばです。宮城の子どもたちと一緒に前へ進んで参ります。これからも応援よろしく願いいたします。



インタビューに答えてくれた方を紹介するでござる!

- お名前 …………… 高橋 雅道
- 役職 …………… 代表理事
- 趣味 …………… 旅行、バンド演奏
- 好きな食べ物 …… ずんだ餅



コスモス園を散策



不登校の子どもたちへの支援についての講演



フリースペース道での勉強の様子



フリースペース道を支えるスタッフたち



岩手山伊達家が開設した郷学(学問所)「有備館」を訪問

団体所在地

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字馬場前72-5 (熊谷珈琲店内)

Tel: 090-2981-4933 Fax: 019-254-3291



Q1. どんな活動をしてるのでござる?

岩手県陸前高田市で、毎年3月11日にイルミネーションイベントを行い、市内の中心地に“思いの灯”を灯す活動を行っています。震災から10年以上が経過し、それぞれが様々な思いを抱いていると思います。そんなそれぞれの思いに寄り添い、その思いを未来につむいでいくことができればと活動を続けています。

Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる!

この活動に賛同し支援して下さる方々への謝礼や、イルミネーションで使用するキャンドルライトなどの備品購入等に使用させていただきます。

Q3. つむぐのアピールポイントは?

自分たちが生まれ育った街を少しでも明るくしたい、震災後の支援への感謝の気持ちを少しでも全国に伝えたいという“地元愛”と“感謝”の思いで活動しています!!

Q4. 令和4年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか?

開催場所を変えるチャレンジを行います。市内に新しく整備された川原川公園・河川敷に開催場所を移し、新しくつくられていく陸前高田の魅力を市の内外に発信します!

Q5. 寄付して下さった皆さんにメッセージをどうぞござる!

このように支援していただくことで、私たちの活動も9年目を迎えることができました。支援していただく皆様の思いの1つ1つを大切に、心のこもった活動をこれからも続けていきます。



ミラーボールのオブジェの前でシャボン玉で遊ぶ女の子



つむぐイルミネーションまちなか広場参加実行委員メンバー



第3回高田に輝の花を咲かせよう参加メンバーたち



インタビューに答えてくれた方を紹介するござる!

お名前 松村 幸祈
 役職 代表
 趣味 料理
 好きな食べ物 おにぎり



竹灯籠...東屋にて実際の炎を灯して鎮魂の思いを



参加してくれた中学生への御礼にとキャンドルをリメイク

団体所在地

〒026-0021 岩手県釜石市只越町1-3-2

Tel: 0193-27-8400 Fax: 0193-27-8400



Q1. どんな活動をしてるのでござる?

岩手県釜石市で2004年からまちづくりと中間支援を柱に活動を行っています。2011年3月11日東日本大震災発生から2017年までは復興支援として、震災で仕事を失った方の受け皿になったり、再就職のためのパソコン講座を開催したり、仮設住宅の見守り・見回りやイベント開催、被災した方々の居場所づくりなどを行っていました。2018年以降は中間支援として地域で活動するNPOのサポートや東日本大震災被災3県沿岸地域の中間支援組織のネットワーク(NPOサポートリンク)をつくり活動もしています。現在は情報通信技術(ICT)活用の支援に力を入れています。

Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる!

地域の子どもたちにプログラミングを通してコンピュータサイエンスに触れる、体験する機会をつくりたいと思います。

Q3. アットマーククリアスNPOサポートセンターのアピールポイントは?

ICTに強いことです。東日本大震災で事務所も流され、情報収集や情報発信、指示伝達などの混乱の経験からICTの必要性を実感し、ICTを活用した組織の基盤強化にも取り組んでいます。

Q4. 令和4年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか?

子どもたちが学校以外でも楽しみながらコンピュータサイエンスやプログラミングに類するコンテンツに触れる機会をつくりたいと思います。

Q5. 寄付してくださった皆さんにメッセージをどうぞござる!

皆さま本当にありがとうございました。
地域の未来を担う子どもたちに、少しでも多くの体験する場をつくりたいと思います。



インタビューに答えてくれた方を紹介するござる!

- お名前 横澤 京子
- 役職 事務局次長
- 趣味 生け花・フラワーアレンジメント
- 好きな食べ物 新鮮な魚や貝



「ぼくらの街はぼくらでつくる」ワークショップ開催



地域住民へのパソコン講座



岩手・宮城・福島沿岸の中間支援NPO活動10年の振り返りワークショップ



地域NPO向け防災ワークショップ開催



子どもたちへのプログラミング講座

おおつち おばちゃんくらぶ

岩手県

団体所在地

〒028-1121 岩手県上閉伊郡大槌町小槌23-23-1 (旧)植田医院

Tel: 090-7074-0174



Q1. どんな活動をしてるのでござる?

ものづくりを通した生きがいづくりや地域の方々との交流、全国に広がる仲間たちとの繋がりを形にしています。チャリティーイベント「Shake Hand」プロジェクトは、震災後「いつか鮭のように元の故郷へ帰って暮らしたい」「世界中が鮭のデザインで繋がるように」「手仕事でおばちゃん達が元気になるように」とプロジェクトが誕生しました。現在、全国から鮭たちが大槌へ帰って来ます。オリジナル商品の製作と大漁旗手作りシリーズでは、大槌をモチーフにしたオリジナル小物や縁起の良い大漁旗の絵柄で小物を作っています。

Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる!

①ものづくりサロンの開催 ②健康づくり簡単体操 ③津波被害により大槌から他の地域へ移り住んだ方々との交流会 ④手作りの展示販売会による被災地の情報発信と震災風化防止 です。

Q3. おおつち おばちゃんくらぶのアピールポイントは?

震災前は同じ町内でも会った事も話したこともないおばちゃん達が集まり、手作りする事で生きがいを見つけ、情報を共有し、見守り、支えています。元気なおばちゃん達です!

Q4. 令和4年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか?

震災から10年が過ぎ、生活の基盤となるものは整備されましたが、心の復興はまだです。ものづくりやサロンを通して心と心のつながりや人と人とのつながりを確認し、生活に生きがいを持ち、作る喜びと生きる意欲に繋がるように活動をしていきたいです。

Q5. 寄付して下さった皆さんにメッセージをどうぞござる!

東日本大震災から10年経過しても、みなさまからの温かいご支援は絶対に忘れません。感謝の気持ちでいっぱいです。たくさんの人たちに助けられて、あの恐怖や辛さから立ち上がろうと頑張っています! ものづくりを通して、皆さまからの応援を胸に、活動を続けていきたいと思ひます。一人の力は小さくても、集まれば大きくなる。大槌町に遊びに来て、口は悪いけど心はあったかいおばちゃんたちと会ってほしいです。



インタビューに答えてくれた方を紹介するござる!

- お名前 川原畑 洋子
- 役職 代表
- 趣味 バスケットボール観戦
(コロナで会場へ行けず観戦できないのが残念)
- 好きな食べ物 三陸の海の幸 (ウニ・生わかめ・新巻き鮭)



小槌神社で野染めにチャレンジ



メンバー同士編物を教え合う



子どもたちとワークショップ



10年のありがとう



3.11 Shake Hand 展示会



Q1. どんな活動をしているのでござる?

東日本大震災及び福島第一原発事故の被災者の支援活動をメインに行っています。被災者が住み慣れた地域から気候も違い、土地勘もない地域に避難しても、その新しい生活環境で孤立することなく他者と関わりを持ちながら、身体も心も健康にしてくれるような活動をしています。被災者支援以外にも、福祉のすそ野を広げようと中学校や高校で出前講座を行ったり、地域の高齢者を元気にするための運動教室などを開いたりしています。

Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる!

避難している方向けに3ヶ所、帰還した方向けに1ヶ所、週に1回運動教室を実施します。定期的に運動教室があることで身体を動かす機会が増えるのはもちろん、他者との交流機会や外出の機会も増やせます。

Q3. ちろるのアピールポイントは?

2人しかスタッフがない小さな組織です。だからこそ困っている人や発生した(もしくはしそうな)問題に対して迅速に対応することができます。また小さい組織だからこそ、被災者や地域の方にとって身近な存在です。

Q4. 令和4年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか?

参加してくれる方々に笑顔で元気になってもらえるような活動を数多くしていきます。数多くすることで、様々なニーズを抱える参加者にも応えられるようにしていくつもりです。

Q5. 寄付してくださった皆さんにメッセージをどうぞござる!

温かいご寄付をありがとうございます。そして当法人を寄付の対象に選んでくださった皆様にも感謝申し上げます。活動を通して地域の中にたくさんの笑顔とつながりをつくっていきます。



インタビューに答えてくれた方を紹介するでござる!

お名前 …… 鈴木 有里絵
役職 …… 代表理事
趣味 …… 釣り、食べること
好きな食べ物 …… 肉、フライドポテト、お米



ちろる学生スタッフと一緒に



スタッフ2人の小さな組織です



帰還した人たちがいつまでも元気でいられるように開く運動教室



ストレッチや筋力アップのための運動に取り組む参加者ら



避難者男性の食の自立と新しい生活環境で孤立しないように横のつながりづくりを目的とした「男の料理教室」

団体所在地

〒979-2121 福島県南相馬市小高区東町 1-40

Tel: 090-5807-3212 Fax: 0244-32-1618



Q1. どんな活動をしているのでござる?

チェルノブイリ原発事故後にウクライナとフクシマ原発事故で避難区域となった南相馬市小高区の交流促進に取組み、原発被災地の放射線量測定を通じて自分たちの生活環境を自ら確認する活動を継続しています。東日本大震災から10年を迎えた小高区の実情を検証する講演会のライブ配信を、2021年に3回開催しております。

Q2. 申請事業の内容を教えてくださいござる!

2021年に引続いて小高区に戻ってきた人達に震災前の暮らしを聞き取り、原発事故による避難時の思いや小高区に帰還を果すまでの証言をアーカイブとして記録映像として残します。

Q3. 希来のアピールポイントは?

原発事故に被災地住民として向き合い続け、放射能のリスクのある中、避難区域でどのように暮らしていけばよいかを市民の皆さんへ伝える活動を通じ、地域の再生に取り組んで来ました。

Q4. 令和4年度の活動の意気込みを拙者に教えてくださいぬか?

原発事故を忘れない、忘れさせないための活動を通じて、震災の経験がない若い世代に伝え、震災から11年目以降のあるべき姿を模索したいと思います。

Q5. 寄付して下さった皆さんにメッセージをどうぞござる!

原発事故の避難区域で住民が『0人』となった小高区。戻ってきた住民が残してゆくものと、街の再生に向けて新たに作り上げていく取組みの状況を見続けてほしいと思います。



インタビューに答えてくれた方を紹介するござる!

- お名前 …………… 小林 友子
- 役職 …………… 代表
- 趣味 …………… 読書
- 好きな食べ物 …… 甘いもの、イチゴ、
ボンカン、三ヶ日みかん



希来を支える小林岳紀さん(左から2人目)小林友子さん(同3人目)ら



ウクライナなど外国との交流事業も



訪れた人々を癒すため駅前の花植活動も続けている



測定器を使い放射線量を測るスタッフ



地元女性による住民のための交流会

東日本大震災と中日新聞社

中日新聞社は、1942（昭和17）年に「新愛知新聞社」と「名古屋新聞社」が合併して誕生しました。前身の両新聞社は、新聞発行以外に社会事業や慈善事業にも力を注いでいました。

名古屋新聞社は困窮者への慈善事業や現在の「子ども食堂」のルーツとなる「簡易食堂」など、市民の生活の質の向上に熱心に取り組みました。一方、新愛知新聞社は義援金に力を入れており、古くは1891（明治24）年の濃尾地震から大規模な募金活動を展開しています。その2社の精神は、今も中日新聞社に引き継がれています。

東日本大震災でもたくさんの読者から義援金が寄せられ、総額は90億8891万5451円に達しました。全国紙など他の新聞社と比べて格段に多い額でした。東海地方には1959（昭和34）年の伊勢湾台風で全国からの支援を受けた記憶がいまだに残っており、「あの時助けてもらったお返しに」と寄付する人も多く、「困った時はお互いさま」という助け合いの心が地域に根付いている表れだと考えられます。

読者から寄せられた善意は、宮城、岩手、福島、茨城、千葉県に届けました。

東日本大震災 10年

15歳 一本松のまちで

東日本大震災10年

2021年 3月11日(木)

きょうの紙面

東日本大震災 10年

見えぬ声 見られぬ故郷 災害住宅 4割高齢者 ドイツ脱原発の行方 ガスで発電 排熱も利用 電線確保へNAS電池 被災者から 平和の俳句特集 勇気を スポーツの底力 子ども避難に「日常」を 地震とるべき行動は 超巨大地震 影響長期化 父は母は 今もどこかに つらくても家族がいる

支援続ける渡辺謙さん 命守る対策 各地で前進

野田、高市氏も接待報道 変異株 21都府県に拡大

2021年3月11日付一面

東北・関東大地震 災害義援金受け付け

本社と中日新聞社 5/0283 中日新聞 東北・関東大地震で大きな被害を受けた地域の被災者を救済するため、義援金を受け付けます。被災地を支援する。受け付け：中日新聞社 051-283-0128

会事業部事務局 〒465 516、同岐阜支部 〒051-283-0128、同岐阜支部 〒051-283-0128、同岐阜支部 〒051-283-0128、同岐阜支部 〒051-283-0128

中日新聞社 051-283-0128

2011年3月12日付一面

義援金 3県に30億円

中日新聞社と中日新聞社事業団は14日、読者から東日本大震災の被災者のために寄せられた義援金30億円を、宮城、岩手、福島の3県にそれぞれ10億円ずつ届けました。

宮城県では大島寅夫社長、岩手県では正博副社長、福島県では中野正博副社長がそれぞれ代表して受け取りました。

宮城県では大島寅夫社長、岩手県では正博副社長、福島県では中野正博副社長がそれぞれ代表して受け取りました。

宮城県では大島寅夫社長、岩手県では正博副社長、福島県では中野正博副社長がそれぞれ代表して受け取りました。

2011年4月15日付一面

東日本大震災 義援金お礼

本社と中日新聞社事業団は、東日本大震災被災者支援のため義援金を受け付けてきました。3月31日で締め切らせていただきました。中部地方をはじめ全国各地から、本・支社、総支局、通信局・部と事業団に義援金が寄せられ、9万5339件、90億8891万5451円に達しました。

寄せられた善意は、表の通り、宮城、岩手、福島、茨城、千葉県に届けました。ご協力くださいました皆さまに、厚くお礼を申し上げます。

配分県	金額
宮城	4,761,925,000円
岩手	2,338,175,000円
福島	1,761,622,096円
茨城	127,193,355円
千葉	100,000,000円

中日新聞社事業団 中日新聞社

2019年4月26日付三社面

義援金2次分32億円

本社と中日新聞社 善意、被災4県へ

中日新聞社と中日新聞社事業団は、東日本大震災の被災者支援のため、2次分義援金32億円を、宮城、岩手、福島、茨城の4県に届けました。

宮城県には2億9千万円、岩手県には2億9千万円、福島県には2億9千万円、茨城県には2億9千万円をそれぞれ届けました。

中日新聞社と中日新聞社事業団は、東日本大震災の被災者支援のため、2次分義援金32億円を、宮城、岩手、福島、茨城の4県に届けました。

2011年5月21日付一面

読者の善意3次分17億円

本社と中日新聞社 宮城と岩手に義援金

中日新聞社と中日新聞社事業団は、読者からの善意を受け、3次分義援金17億円を、宮城と岩手に届けました。

宮城県には9億5千万円、岩手県には7億5千万円をそれぞれ届けました。

中日新聞社と中日新聞社事業団は、読者からの善意を受け、3次分義援金17億円を、宮城と岩手に届けました。

2011年8月26日付一面

「困ったときはお互いさま」 義援金事業

つなぐ善意 中日新聞社事業団80年

小銭でいっぱいのお金を持ち込んだばかりの小金箱、お札が乱雑に入られたカン箱。多額の義援金が寄せられた理由として、「伊勢湾台風の恩返し」として、多額の義援金が寄せられた。多額の義援金が寄せられた理由として、「伊勢湾台風の恩返し」として、多額の義援金が寄せられた。

「困ったときはお互いさま」 義援金事業

2011年3月、被災地への義援金を託して訪れた人たちが、中日新聞社で、多額の義援金が寄せられた理由として、「伊勢湾台風の恩返し」として、多額の義援金が寄せられた。

2017年12月22日付県内版